

太陽光発電は

メリットがいっぱい!

太陽光発電は地球環境にやさしいだけでなく、電気代の削減や災害時にも使用可能な電源として活用できるなど様々なメリットがあります。

電気は買うよりつくる方が安い時代! 電気代高騰へ対応可!

環境に配慮しながら、大幅な電気代の削減が期待できます。太陽光発電による電気代の削減と売電による収入により年間約5.3万円の電気代を節約できるとする試算もあります。(*)

※環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」の関連資料



リース、PPAなら
初期投資ゼロ

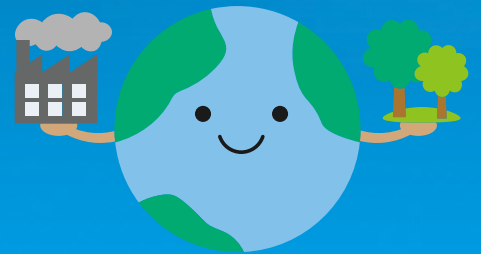
災害時にも活用できる!

災害などによる停電時でも、設備に異常がなく発電している屋間は、電気を使用することができます。また、蓄電池と組み合わせることで、夜間でも電気を使用することができます。



クリーンエネルギーで 環境へ配慮可能!

発電の過程でCO₂が発生しないため、地球環境の保全に貢献することができます。



太陽光発電の導入方法は主に3タイプ

太陽光発電設備の設置方法ごとのメリット・デメリットを比較すると、以下のようになります。

自己所有

概要

住宅や建物の所有者が自己資金で太陽光発電設備を購入し、設置する導入手法です。自家消費して余った電気は売電することができます。

メリット

- 長期的に見れば最も投資回収効率が良い(サービス料がかからないため)
- 処分・交換など自社(または個人)でコントロール可能
- 自家消費しなかった電気は売電できる(売電収入)

デメリット

- 初期投資が大きい
- 維持管理・メンテナンスの手間と費用を負う
- 資産として計上する必要がある

リース

概要

住宅や建物の所有者が太陽光発電設備を借りて使う導入手法です。設備はリース事業者の所有になりますが、自家消費をして余った電気は売電することができます。

メリット

- 基本的に初期投資ゼロ
- 維持管理・メンテナンスの費用が発生しない
- 自家消費しなかった電気は売電できる(売電収入)

デメリット

- 長期契約であり自由に交換・処分ができない
- 発電がない場合でもリース料を支払う必要がある
- リース資産として管理・計上する必要がある

PPA

(Power Purchase Agreement: 電力購入契約)

概要

発電事業者の費用で屋根に太陽光発電設備を設置する導入手法です。住宅や建物の所有者が使用した分だけ再エネ電力を購入することになります。設備は発電事業者の所有になり、余った電気は売電できません。

メリット

- 基本的に初期投資ゼロ
- 維持管理・メンテナンスの費用が発生しない
- 使用した分だけの電力購入である
- 一般的には資産計上されない

デメリット

- 長期契約であり自由に交換・処分ができない
- 機種など自由に選択できない
- 余った電気は売電ができない

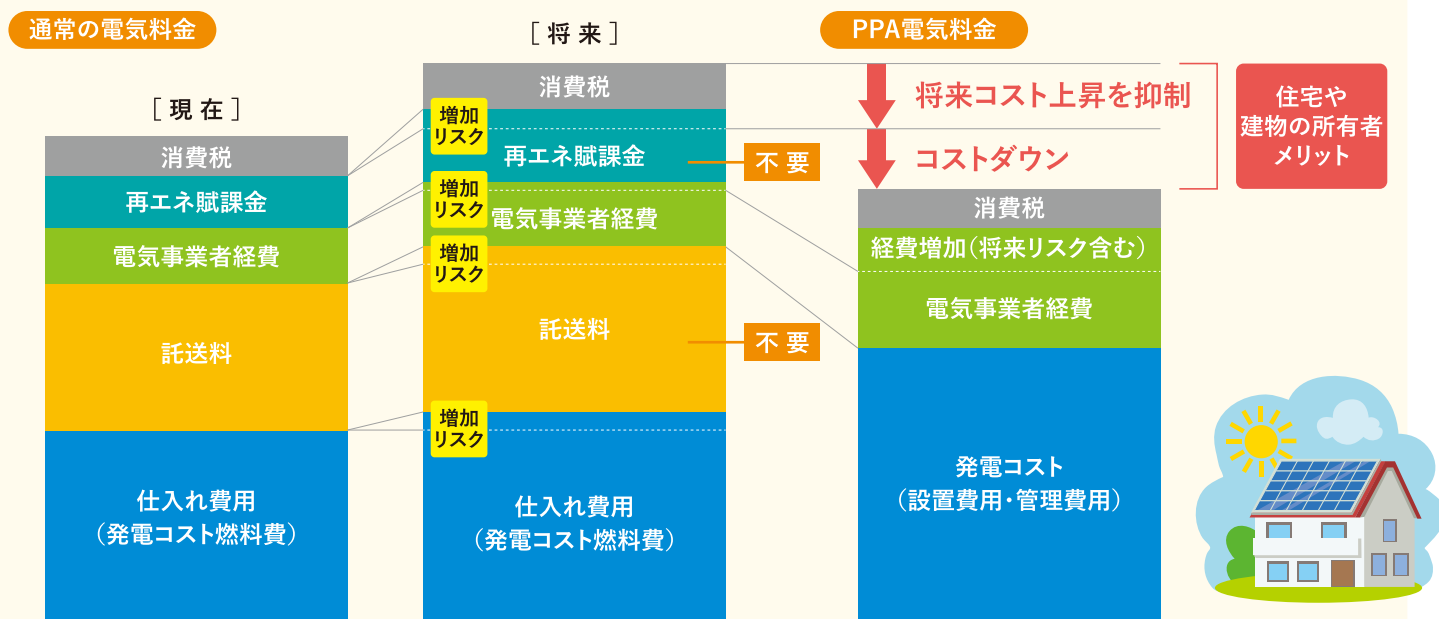
初期投資“ゼロ”でエネルギーの地産地消に貢献! 「鳥取スタイルPPA」の取り組み

鳥取スタイル
PPAとは

エネルギーの地産地消(富の地域内循環)を推進するため、
県内発電事業者や地域新電力が連携して取り組む初期投資ゼロの導入手法です。

- ・住宅や建物の所有者が無償で貸し出す屋根や敷地などに、県内の発電事業者が太陽光発電設備を設置します。
- ・発電した電力を県内の地域新電力会社(電力小売り)と連携して、住宅や建物の所有者へ有償提供し、住宅や建物の所有者が自家消費します。

電気料金構築イメージ (通常の電気料金とPPA電気料金の比較)



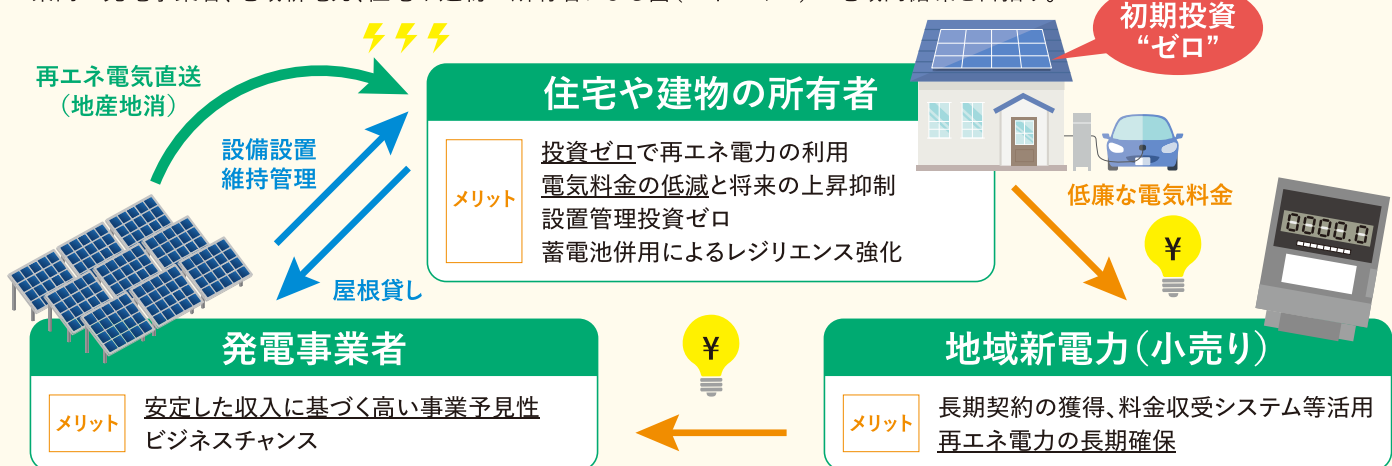
※PPAの場合、電気料金に燃料費を含まないので、燃料費の高騰による料金変動がおきず、長期的に安定した料金になります。PPAにすることで、託送料(送配電網の利用料金)及び再エネ賦課金(注)が不要となります。

(注)再生可能エネルギー発電促進賦課金の略称で、FIT制度(再生可能エネルギー固定価格買取制度)に基づいて導入された再生エネ電力の買い取りにかかる費用を電力料金の一部として電力使用量に応じて負担するもの。

鳥取スタイルPPAの目指す形

地元事業者によるプラットフォーム

県内の発電事業者、地域新電力、住宅や建物の所有者による富(エネルギー)の地域内循環を目指す。



問合せ先

鳥取県生活環境部 脱炭素社会推進課

Tel : 0857-26-7879 Email : datsutanso@pref.tottori.lg.jp

